

## 越前町議会・令和4年12月定例会一般質問【石田和朗議員】

(令和4年12月7日 午前10時00分 開始)

○4番(石田和朗君) 石田和朗です。

今年もスキージャム勝山から、シニアクラブ会員登録更新のご案内が届きました。今シーズンもスキーを楽しみたい。年の初めに病気に襲われ、今までのように歩くことが困難になり、以来、リハビリ治療を済生会病院、木村病院、織田病院へと継続しています。今ではおかげさまで、少しずつグラウンドゴルフやペタンクなど、仲間の励ましもありまして、杖を頼りですが、交わるようになりました。

病院の待合室には、内科、外科、その他治療で、座れる椅子に余裕がないほど、たくさんの患者さんや付添人の方々が長い間、診療順番を待っています。通院の多くの方は、定時路線の福鉄バス、時刻に合わせたコミュニティバス、介護タクシー、家族の自家用車送迎、自身で運転して、ハートフル専用パーキング利用証をルームミラーにかけて駐車場から来院、徒歩での通院は、ゼロとまでは言いませんが、少ないです。

それでは、議長のお許しを得ましたので、通告書に基づき、一般質問をさせていただきます。

令和4年4月から始動、運行を開始したデマンドタクシーについてお伺いいたします。

本来の趣旨・目的について、ちょいとそこまでをコンセプトに、交通手段にお困りの弱者のため移動手段を提供し、外出機会を増やしていくことで、健康増進・維持のサービスであります。利用者の自宅と指定停留所の間をドア・ツー・ドアで結び、予約依頼があったときだけ走行するもので、定時路線のコミュニティバスなどと異なるデマンド、デマンドというのは需要や要求らしいです。デマンドタクシーと理解してよろしいでしょうか。

チョイソコえちぜん、デマンドタクシーの運行開始から、まだ半年余りしかたっていないませんが、実態はどのようなもののでしょうか。現在の保有台数と利用者数はどれだけか、今までの利用予約者数の実績はどれだけか。利用者のアンケートを取るほどの日数には至っていないと思いますが、今までに町民からの問合せ、運行時間、運行日、運賃などで意見はあったのでしょうか。

私は、このデマンドタクシーは、良いシステムで利用したいと思い、会員登録をしました。利用区域は、朝日区域には25指定停留所、織田・宮崎区域は29指定停留所があり、運行範囲はそれぞれその範囲内に限定され、区域外に行くには、チョイソコえちぜんで環状ルートや路線バスと接続する指定停留所まで行き、そこでバスに乗り換えてくださいとパンフレットに書いてありました。さらに、ピンクの色抜きで、隣の区域、越前地区、隣接市町などには行けません、朝日地区から織田病院、宮崎地区から役場には行けませんと、お知らせの記載がしてあります。

パンフレットの地図を見ますと、指定停留所は、宮崎・織田区域は緑、朝日区域はピンクに色分けして、茱原バス停だけは朝日、織田・宮崎共通区域の水色で唯一の乗り場所。

越前町は3町1村が一つになって、ようよう融和感を得る環境になってきていますが、どうして越前地区は走行しない。宮崎・織田区域と朝日区域を区分けして、

チョイソコえちぜんなのに、あさひ号とおたみや号と2つの名前をつけているのか。同じ一つの町なのに別々に分けたのか。朝日・糸生の住民が織田病院に、宮崎・織田の住民がチョイソコえちぜん、乗り換えなしで直接なぜ行けないのでしょうか。

このようになるのには、何度も会議して、試行錯誤の上、運行に至ったのですが、せめて越前町役場と織田病院は、越境乗り換えなしと特例・改善の余地はないのでしょうか。

町長に質問し、ご所見をお伺いいたします。よろしく申し上げます。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

町長（青柳良彦君） 登壇

○町長（青柳良彦君） それでは、石田議員のご質問にお答えいたします。

議員におかれましては、令和3年3月より町議会を代表し、越前町地域公共交通活性化協議会委員として、町の地域公共交通計画の内容をご理解いただき、コミュニティバスの運行並びに今日のデマンドタクシー、チョイソコえちぜんの導入に携わっていただきましたが、改めて、今日までのコミュニティバスの状況及びデマンドタクシー導入の経緯についてご説明いたします。

コミュニティバスは、町内の交通空白地帯をなくし、お年寄りなど交通弱者の移動手段を確保することを目的として、平成18年6月から運行を開始しました。以降、聞き取り調査や乗降調査などを通じて、町民の声を聞き、ニーズを反映した路線の見直し、バス停の新設及び無料運行の実施などによる利用促進に努めてまいりましたが、年間の利用者が年々減少するとともに行政負担が増加し、コミュニティバスの運行形態の抜本の見直しが喫緊の課題となっております。

このような状況を踏まえ、路線バスを含めた持続可能な公共交通を実現するため、地域住民、交通事業者、関係行政機関などによる越前町地域公共交通活性化協議会において、令和2年11月から令和3年1月までに3回の協議会を経て、新たな越前町地域公共交通計画を策定いたしました。

計画では、コミュニティバスの運行で比較的安定した利用の見られる環状ルート、越前地区巡回ルート及び乗り合いルートについては、ダイヤの見直しなどにより運行を継続することとし、利用が低迷している朝日地区、宮崎地区、織田地区の巡回ルート及び乗り合いルートは廃止とし、ドア・ツー・ドアの区域デマンド運行を新設すると決めました。

そして、議員も委員として出席された令和3年6月、11月の協議会で承認をいただき、本年4月から、デマンドタクシー、チョイソコえちぜんの運行をスタートいたしました。

議員も既にご承知のとおり、チョイソコえちぜんは交通手段にお困りの方の移動手段として、運行予約があった場合に、自宅と指定停留所間を運行するデマンドタクシーです。運行車両は朝日区域、宮崎・織田区域ともに2台です。1号車は町が購入した6人乗りの車両で、2号車はタクシー事業者が所有している3人乗りの車両になります。

利用登録者は11月末現在で229人、延べ利用者数は796人です。

なお、利用者の約9割が70歳以上の方となっております。

議員ご質問の町民からの意見につきましては、土日の運行や予約の時間帯などについて問合せがありました。また、料金については、70歳以上の方のコミュニティバス1乗車料金100円に比べて、400円という料金設定が高いと受け取られている方がいる一方、ドア・ツー・ドアのおかげで大変便利に利用させても

らっているとの声もいただいております。

さて、当町の交通体系は、路線バス、コミュニティバス、デマンドタクシーがそれぞれ運行しており、そのほかに民間のタクシーもご利用できます。路線バスは通勤・通学など広域の移動手段、コミュニティバスは地区をまたぐ移動手段、デマンドタクシーは地域内の移動手段として、それぞれの役割を明確にし、ネットワークを構築しています。

議員ご提案の朝日から織田病院、織田から役場への移動は、路線バス、コミュニティバスの環状ルートがその役割を担っております。ネットワークの役割を侵すような運行、例えばデマンドタクシーを地域を越えて運行することは、路線バスやコミュニティバスと競合することとなり、どちらか一方の利用者を減らし、運行継続を困難にさせ、ひいては路線の廃止にもつながりかねません。

路線バス利用者が減少し、路線バスの廃止によりバス事業者が撤退した場合、運行を再開することは極めて困難であり、そのような事態を招くことは絶対に避けなければなりません。

したがいまして、路線バス、コミュニティバス、デマンドタクシーの連携・共存が求められる中、地区をまたぐデマンドタクシーの運行はできません。

いずれにいたしましても、運行がスタートしてから、まだ1年を経過しておりません。利用者も徐々に増加しており、今後も利用者の声を聞きながら、改善できるところは改善し、利用促進に努めてまいります。

以上です。

○議長（笠原秀樹君） 石田和朗君。

○4番（石田和朗君） これから寒くなり、高齢者や障害者、交通弱者には、大雪とか強風で傘が差しにくくなり、外出にはデマンドタクシーほど、頼りになり役立つものはないと私は確信しております。

これからも、一番最後に町長さんが、交通機関との兼ね合いのことをおっしゃられていただきましたけれども、それを信じて、町民に寄り添う施策をこれからも続けていただきたいと思います。

それでは、一般質問の機会を与えていただいた議長、誠実に答弁をお答えいただいた町長さんにお礼を申し上げて終わります。ありがとうございました。

（午前10時16分）